

| | | |
|----------|-------------------------------------|----------|
| 1 | 全国地域リーダー養成塾 20周年記念シンポジウム | 2 |
| | 基調講演 | 2 |
| | パネルディスカッション | 3 |
| 2 | 大学と地域が連携する地域づくり | 4 |
| | 地域の特産野菜のブランド化に取り組む | 4 |
| 3 | 地域づくり活動の紹介 | 6 |
| | まちの駅・獅子の里つるぎ | 6 |
| | 能登の心をつなげたい | 7 |
| | 能登には3つの赤がある | 7 |
| 4 | NEWS & INFORMATION | 8 |
| | イベント | |

いしかわ地域づくり 往来

[www.pref.ishikawa.jp/
shinkou/dukurikyou/index.htm/](http://www.pref.ishikawa.jp/shinkou/dukurikyou/index.htm/)

発行日／平成20年10月1日

発行／石川地域づくり協会

発行者／石川地域づくり協会事務局 事務局長 森田 美恵子

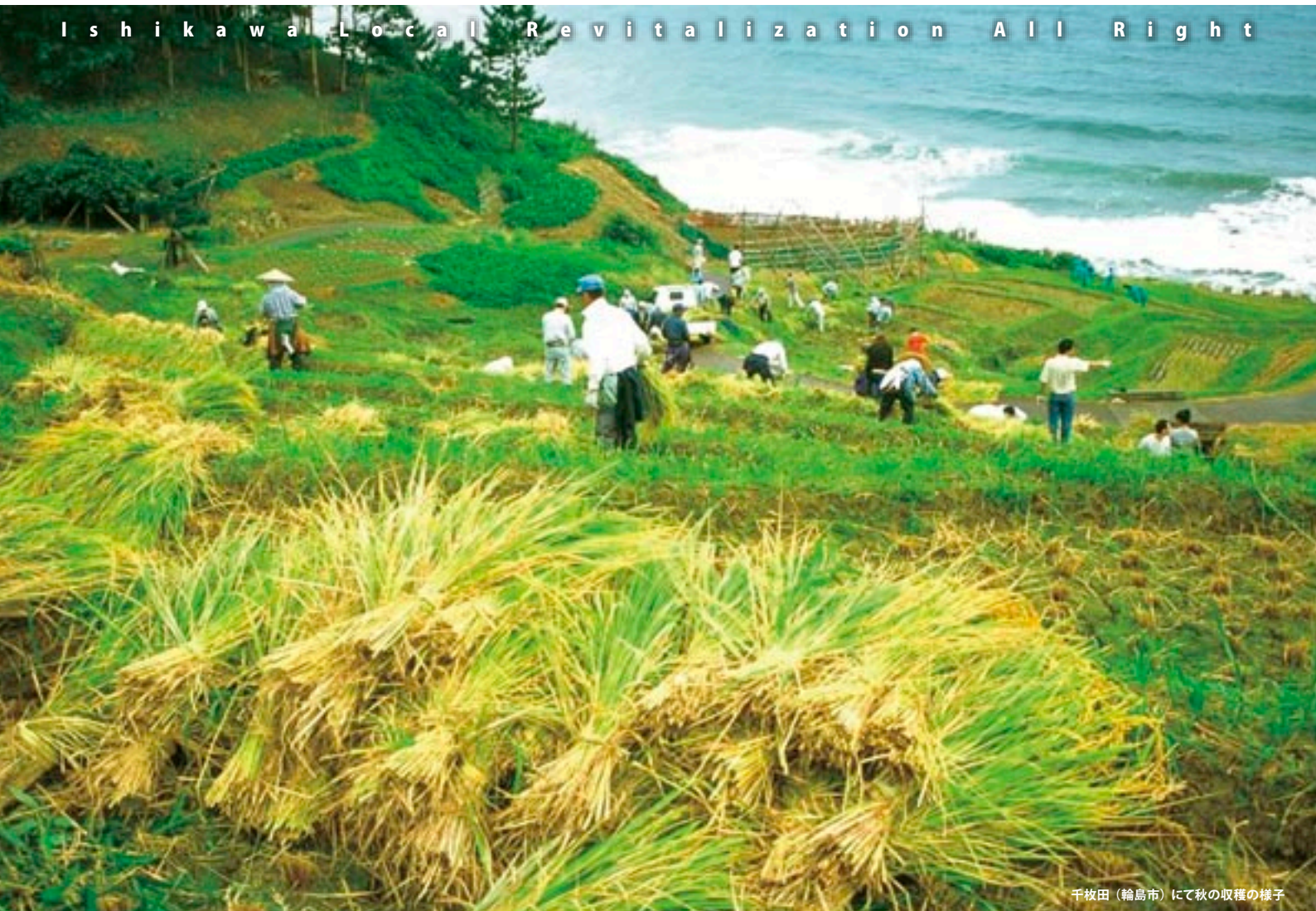
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

石川県企画振興部地域振興課内

TEL.076-225-1312 FAX.076-225-1328

vol.4

I s h i k a w a L o c a l R e v i t a l i z a t i o n A l l R i g h t



千枚田（輪島市）にて秋の収穫の様子

1-a 全国地域リーダー養成塾 20 周年記念シンポジウム

8月7日（木）、東京都港区虎ノ門パストラルにて「全国地域リーダー養成塾 20 周年記念シンポジウム～地球づくりは人づくりから～」が開催されました。リーダー養成塾の卒業生を含む全国から約 400 人の地域づくり関係者が集い、全国の動向に耳を傾けました。今回は、そのシンポジウムの様子をご紹介します。

基調講演

『地域づくり、人づくり』講師 立松 和平 氏(作家)

まず、基調講演として、作家の立松和平氏による『地域づくり、人づくり』と題した講演会が開かれました。作家として多数の著書を執筆されるとともに、多岐に渡る地域づくり活動に取り組まれている立松氏の話は説得力に富んでいました。

立松氏は「全国どの地域を訪ねても同じような風景が広がり、街並みの均一化が進んでいる」さまを「現代の便利さ追求による危うさ」と評しました。そして、便利さを追い求める「コスト意識」が農業や地域づくり・街づくりだけでなく、我々の生活自体を難しくしている、と語りました。

これらを踏まえ、コスト意識から脱却し「いかにして生きるか」を追求することが長寿社会の現代において重要になると指摘され、特に 50 歳から 75 歳までの*林住期の生き方について言及しました。林住期の都会人に帰農を希望する人が多いことに触れ、地元住民の「ノウハウ」に帰農者が持つ「企画力」「流通力」が加わることで、地域を巻き込んだ活性

化が可能となりうる、と実例を交えながら語りました。

ご自身による地域づくり活動の一つとして、有志で平成 7 年に始めた地元足尾（栃木県）での植林事業が当時の 10 倍の参加者（平成 20 年 4 月実施で 1500 人）を集めるまでに浸透したことを紹介しました。しかし、活動の目標である「100 万本の植樹」の達成には、今のペースでも 320 年という途方もない歳月を要するそうです。このような現実を考えると、現在の活動は「貧者の一灯」に過ぎないかもしれないとしながらも、できることをし続けるしかない、と述べました。

そして、一般の地域づくり活動も同様だとされ、早急に結論を得ることは難しいが、信念を貫き自分ができるところをすることで他人を巻き込み、活動を継続させていく必要がある、と語りました。

* 林住期…五木寛之氏の同名小説から生まれた流行語。古代インドの考えに基づき、人生を 4 つの時期に分け、50 歳から 75 歳の第 3 期を指す。

記念シンポジウムに全国から集った参加者



基調講演をされた作家の立松和平氏



パネルディスカッション

『地域リーダーの力～自立の心・協働の仕掛け～』

パネルディスカッションは、コーディネーターに地域リーダー塾の大森^{わたる}塾長を、パネリストに同塾の後藤春彦主任講師、「NPO 法人結まるプラス」のかわべまゆみ理事長、広島県安芸高田市自治振興課の小田忠課長の3人を迎え行われました。異なる背景を持つ3人の意見に大森氏の絶妙な質疑が加わり、これからの地域づくり活動への提言がなされました。

かわべ氏は東京でマーケティングプランナーとして活躍していましたが、結婚を機に夫の故郷である島根県に1ターンしました。持ち前のマーケティング能力を活かし、多岐に渡る地域づくりビジネスに取り組んでいます。地域を売るにはまず人を売る必要があると考え、生産者の顔が見える活動を展開しています。「持続可能な地域づくりに必要なのは地域愛だ」と地域に愛着を持つことの重要性を強調しました。

小田氏が課長をされている安芸高田市では、平成の大合併に先立ち、集落の枠組みを越えた「住民自治組織」を設立しました。組織の区域は住民自身で設定し、それぞれ実情に合わせ、活動を行っています。

今後の課題は、現在生じている組織間格差をいかにして埋めていくかだとされ、その上で行政から自立した組織に成長させたいと話しました。「住民が居心地良い」と感じる地域づくりが最も大切であり、これからの行政は「主導の意識」から「仕掛けづくりの意識」へ変わる必要がある、と述べました。

早稲田大学教授で都市計画等を専門とされている後藤氏は「現在、行政の公共サービスをいかにして住民に返していくかが問われている」と語りました。コミュニティの範囲は、地域の実情・風土に合わせるとともに、何を担うかを把握した上で設定しなくてはならないとし、その意志決定としては「カリスマ型リーダー」ではなく、状況や得意分野に応じてリーダーが入れ替わる「キーパーソン型リーダー」が求められていると、地域づくりの新たなリーダー像を提示しました。また、持続可能な地域づくりに向けて、地域資源の資本化に着手していかなくてはならない、と語りました。

ウィットに富んだ進行で場を盛り上げた大森塾長



活発な討論がかわされた



2-a 大学と地域が連携する地域づくり

県と大学コンソーシアム石川は、大学と地域が連携する地域づくりを推進するために、「地域課題研究ゼミナール事業」や「地域貢献型学生プロジェクト事業」を実施しています。今回は、大学が地域の課題に取り組み、特産野菜のブランドづくりが進んでいる事例をご紹介します。

地域の特産野菜のブランド化に取り組む

知的財産法ゼミナールの取り組み

ゼミの活動経緯

金沢大学法学部の知的財産法ゼミナール（大友信秀教授研究室）では、平成 18 年度に地域貢献型学生プロジェクト事業で、七尾市沢野町において、地域の特産品である沢野ごぼうの収穫の手伝いをきっかけとして、沢野ごぼうのブランド確立に向けた取り組みを開始しました。

大友ゼミは、知的財産法を専門とするゼミナールで、ブランディングの研究を行っています。机上だけでなく、ブランディングの実践的な取り組みとして、地域が特産野菜のブランド化をしようとする活動を支援するため、活動に積極的に参加し、地域社会での学生の学びを実践しています。

平成 19 年度には、地域課題研究ゼミナール事業において、白山市河内町奥池地区に伝わるヘイケカブラと輪島市三井町細屋地区に伝わる細屋ごぼうの生産復活とブランド確立に向けた調査研究事業に取り組むこととなりました。

活動の内容

七尾市沢野町においては、ゼミの学生は沢野ごぼうの収穫作業を手伝い、実際に農業を体験しながら、地域で開催される沢野ごぼう祭りや農家レストランを

訪れ、ごぼうのスイーツ製作の検討やホームページの充実等について、地元住民らと意見交換を重ねました。

意見交換を踏まえ、ストーリー性のある沢野ごぼうブランドを発信するための情報発信源として、沢野ごぼうについて分かりやすく解説した「沢野ごぼう事業協同組合」のホームページを立ち上げ、運用を行ってきています。このホームページの中で、沢野ごぼうの特性、調理法だけでなく、歴史的経緯などを紹介することで、ブランドアイデンティティの確立に一役買っています。学生らもこのホームページの運用を通して、ブランド戦略について学ぶことが多かったようです。

この経験を活かし、平成 20 年度は、白山市河内町奥池地区で、ヘイケカブラの復興に取り組むこととなりました。この地区は、過疎化の進む小さな集落で、昭和 38 年ごろまで焼き畑カブとして栽培されていたヘイケカブラを地域活性化の起爆剤とすることはできないかという地元住民のアイデアから、ヘイケカブラの復興に取り組もうとする地区です。ゼミではヘイケカブラの種まき、収穫作業に参加するほか、現在は収穫量が少なく安定していないため、量産の方法の研究や、素材の特性を活かした新たな調理法の開発を行いました。地域住民と学生との交流も盛んとなり、

沢野町（七尾市）で住民と意見交換する学生



ヘイケカブラの種まきを行う学生



細屋ごぼうの加工品を試食する学生



～「沢野ごぼう (七尾市)」「ヘイケカブラ (白山市)」「細屋ごぼう (輪島市)」のブランド化を目指して～

知的財産法ゼミナールの取り組み

過疎化の進む集落に賑わいと活気をもたらしました。このゼミの取り組みが刺激となり、河内町周辺地域において、これまでヘイケカブラを生産していなかった農家も、新たにヘイケカブラの生産に前向きな姿勢を示しているとのこと。

また、平成 19 年度は、ゼミでは同時期に別の班を編成し、奥能登、輪島市三井町細屋地区でも活動を行いました。この地区は、かつては農業の盛んな地域で、そのなかでも細屋ごぼうの生産は、この地区の農業の中核となっており、味、香りともに良いと評判でしたが、ごぼうの収穫には大変な労力を費やすこと、また離農者が増加したこともあって、一時途絶えていました。しかし、細屋ごぼうを復活させることで、地域おこしを図りたいという計画が持ち上がるようになり、その中心として、土木建築業者の上野組が生産を行おうと計画し、その復活にむけて、ゼミとのタイアップが実現することになりました。

ゼミでは、生産は業者や地元住民に任せ、細屋ごぼうの新加工品の研究、提案に専念しました。また、学生らは収穫祭に参加して、実際にごぼう堀りを行いました。この活動によって、上野組は本格的に農業に参入することになり、平成 20 年 4 月に、県内の建設業者としてはじめて農業参入を果たしています。手

法として、土木建築業者ならではのユニークなアイデアを駆使しながら実践しており、特に労力がかかる収穫作業において、建設資材を使って高齢者でも簡単に収穫できるように工夫をしました。

発展する活動

これらのゼミの活動は、今年度も継続して、地域課題研究ゼミナール事業において行われることになっています。さらに今年度は、これまでゼミが携わってきた特産野菜を使用し、スイーツを加工する株式会社をゼミの学生が立ち上げることになっています。

この会社では、これまでの活動で培ってきた人脈、経験を活用しながら、規格外のため商品にならず破棄してしまう特産野菜を使ってスイーツを考案し、加工から販売まで行う予定をしています。

また、ゼミの専門である知的財産法の研究を活かし、これまで活動を行ってきた特産野菜の「地域団体商標」登録を目指し、支援を行っていくことにしています。知的財産権を得て、確かな権利に基づく地域活性化を目指すという考えです。

ゼミの学生らが大学で学んだ知識を、地域課題を解決するために実践的に活かそうとする取り組み。これからの活動にますます注目したいと思います。

沢野ごぼう



ヘイケカブラ



細屋ごぼう



3-a 地域づくり活動の紹介

県内では各団体がそれぞれの視点から独自の手法により地域づくり活動を展開しています。今回はその中から「まちの駅・獅子の里つるぎ」、「ココプロジェクト」、「奥能登ウェルカムプロジェクト」の取り組みについてご紹介します。

まちの駅・獅子の里つるぎ～「おはぎ屋」の取り組み～

まちの駅・獅子の里つるぎ推進協議会 お問い合わせ 0761-93-2211 由田徹 / 能美の里山ファン倶楽部

「まちの駅」という言葉はまだ耳慣れない言葉かもしれませんが、「まちの駅」とは、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人との出会いと交流を促進する空間施設としての拠点を表しています。「まちの駅」は、人と人、人とまちを繋ぐ場として捉えることができます。それぞれが取り組みのテーマを持つことが特徴で、福祉、医療、アート、教育、スポーツ、観光、農業など、様々なものをそのテーマとすることが出来ます。一つひとつの「まちの駅」はテーマに沿って活動を深め、点の充実が計られていきます。点である「まちの駅」が連携することで、大きなネットワークを生み、地域づくりが行われていくことが目指されています。

「まちの駅」の取り組みは、2000年より始まっており、現在は「まちの駅連絡協議会」が運営し、NPO 地域交流センターが事務局を務める全国的な取り組みとなっています。石川県では2007年より鶴来商工会と、「NPO 加賀白山ようござった」との連携により「まちの駅・獅子の里つるぎ」の取り組みが行われています。

「まちの駅・獅子の里つるぎ」には、旧鶴来町の店舗を中心に40を超える「まちの駅」があります。その一つの白山比咩神社表参道大鳥居前に店を構えるいっぷく処「おはぎ屋」には、「まちの駅・獅子の里つるぎ推進協議会」と「NPO 加賀白山ようござった」の事務局があります。みやげ物、地元の特産品の販売と企画・開発、コミュニティ・レストランの経営、レンタサイクル、レンタカー、観光タクシーの取り扱いというようにいくつもの観光に関わるプロジェクトを組み合わせる先進的で積極的な経営がなされています。もともと「まちの駅」は、既存施設を活用して設置することが想定されており、その設置・運営主体は行政・民間を問うていません。「協働」・「既存の地域資源の活用」が最近の地域づくりの方向性を示すのであれば、まちの駅「おはぎ屋」の取り組みはまさに「地域づくり」そのものなのかもしれません。

「おはぎ屋」のように先進的で積極的な取り組みは難しいかもしれませんが、アイデアが盛りだくさんの充実した拠点づくりは私たちも大いに見習っていきたいと思います。

まちの駅は、写真のようなサインが目印となっている。白山比咩神社表参道大鳥居前に店を構えるいっぷく処「おはぎ屋」のサイン

おはぎ・笹ずしなどの地域の物産だけでなく、どぶろく・どぶろくソフト・おはぎソフトなど独自に開発したユニークな品を取り扱う

いっぷく処「おはぎ屋」の店主辻貴弘さん。「まちの駅・獅子の里つるぎ」と「NPO 加賀白山ようござった」の事務局を務めている



能登の心をつなげたい

ココプロジェクト（七尾市）

「ココプロジェクト」は七尾市を拠点とし、20代・30代の若者約40名で構成するパワフルな地域づくり団体です。

8月に発足1年を迎えた若い団体。その始まりは「能登の心をつなげたい」と集まった6人からでした。しかし、自分たちの手で大好きな能登を変えたい、もっともっと好きになりたい、そんな同志が増えていくのに、それ程時間はかかりませんでした。

今春、七尾市宝幢寺にて開催された「夢宵音楽会」は地元の老若男女200人超を巻き込み大いに盛り上がりました。幻想的に揺らぐ蝋燭の灯りの下、随所に能登の自然・歴史を感じさせる仕掛けを盛り込みました。

このような華々しい音楽イベント開催の他、隔月で地元を学ぶ歴史講座を開講したり、地元開催の各種イベントに積極的に参加するなど能登の魅力を学び、能登を新しい形で発信する方法を考えながら一つ一つ実行しています。能登をもっと良くしたい、好きになりたい…若者たちの熱い想いが地域の魅力を引き出していきます。

200人が一体となった夢宵音楽会（七尾市宝幢寺）



能登には3つの赤がある

奥能登ウェルカムプロジェクト 推進協議会

お問合せ 076-225-1312

当プロジェクトでは、これまで、奥能登地域の活性化と誘客素材の発掘に取り組んできました。

奥能登地域には、日本の原風景ともいえる豊かな自然や、農村漁村の生活、独自の食文化や伝統文化が数多く存在するものの、その魅力をどう発信していくかが課題でした。そこで、1年間に渡りプロジェクトチームで議論したところ、「能登には、いつもあるけどいつもは見られない赤色が3つある」との提案があり、色彩にこだわっていかうと決めました。

いつも当たり前のように眺めていた光景も、色彩という視点であらためて見ると、何気ない風景や風物のなかにもいろいろな色があることがわかり、このいろいろな色を「のといろ」と名付けました。

最初のテーマは、当然「赤」。のとキリシマツツジの深紅と、夕陽・朝陽の茜色の魅力を伝えるため、情報誌「noto色」を発刊して紹介しており、現在取材中の第3号では、キリコ祭りの祭灯を紹介します。

色彩をテーマにした地域の魅力の発信は全国でも珍しいとのこと。来年のテーマはどの色かと考えています。「あなたののといろは何色ですか？」

茜色に染まる朝陽と海岸（珠洲市蛸島）



「NEWS & INFORMATION」はあなたの団体のイベント告知や、活動メンバー募集などを掲載するページです。掲載ご希望の団体は事務局までご連絡下さい。

能美の里山ファン倶楽部 能美ほっこりまつり

イベント

参加のお問合せ 0761-52-8006

平成の名水百選「遣水観音霊水」の里として知られる仏大寺町を会場に行われる市民手づくりのまちむら交流イベントです。お気軽にご来場ください。

□ 入場 無料

□ 10月18日(土)

遣水観音山ガイドハイク 10:00～14:00

螢灯会点灯(キャンドルと音楽で幻想的な里山を演出) 17:00

□ 10月19日(日) 9:00～15:00

吊るし柿づくりや薪割り、里山自然学校など、里山の自然や人、歴史、生活文化を素材に、体験と食による交流を深め、どこかしら懐かしく“ほっこり”と温か味のある里山を体感してください。

- 会場 能美市仏大寺町
- お問合せ 能美の里山ファン倶楽部 事務局 担当:山田
〒923-1297 石川県能美市来丸町1110番地
能美市役所辰口庁舎 中山間地振興課内
TEL.0761-52-8006 FAX.0761-52-8020
webmaster@nominosatoyama.com
www.nominosatoyama.com/
(能美の里山ファン倶楽部 HP)

やすらぎ空間「竹の浦館」 体験教室

イベント

参加のお問合せ 0761-73-8812

木造校舎(旧瀬越小学校)の木の香り漂うやすらぎ空間「竹の浦館」で、工芸体験教室、料理教室をはじめ、各種催し物が楽しめます。申込方法等は、お気軽に下記までお問合せ下さい。

□ フィリピン料理教室 10月12日(日)10:00～(参加費2000円)

□ とうふ作り教室 10月18日(土)、21日(火)11:00～(参加費800円)

□ 写生会 竹の浦館描く 10月19日(日)10:00～(参加費無料)

□ 写生会作品展 加賀アートクラブ共催
10月26日(日)～11月9日(日)9:00～17:00

※スケジュール等は変更となることもありますので、事前にご確認下さい。

- 会場 竹の浦館
加賀市大聖寺瀬越町イ19-1
- お問合せ NPO 法人竹の浦夢創塾
開館時間 9:00～17:00 休館日 水曜日
TEL.0761-73-8812 FAX.73-8813
musojuku@mail2.kagacable.ne.jp
www1.kagacable.ne.jp/~musojuku/
(やすらぎ空間「竹の浦館」HP)

全国過疎問題シンポジウム 2008 in いしかわ

イベント

参加のお問合せ 076-225-1312

今後の過疎対策のあり方について、広く住民や関係者等を交え、過疎問題について幅広く議論を深めるとともに、参加者相互の情報交換・交流を図ります。申込方法等は、下記までお問合せ下さい。

□ 10月22日(水) 16:30～

前夜祭 珠洲市一能登半島里山里海自然学校ほか

『現地視察、意見交換』

□ 10月23日(木)

全体会 輪島市一輪島市文化会館 13:00～16:45

基調講演「豊かさの物差しを替える」松本克夫(ジャーナリスト)

パネルディスカッション 「次代に引継ぐ愛着と誇りの持てる地域づくり～都市と過疎地域の互恵・共生～」

交流会 輪島市一ホテル高州園 18:00～19:30

□ 10月24日(金)

分科会 10:00～12:00

輪島市一門前ビューサンセット

『まちづくり～震災からの復興における取り組み～』

穴水町一キャッスル真名井

『大学等と連携した地域づくり』

七尾市一七尾市中島文化センター

『過疎地域自立活性化優良事例発表』

※金蔵学校(輪島市)含む優良事例表彰4団体が発表

能登町一春蘭の里 交流宿泊所「こぶし」

『過疎地域自立活性化優良事例発表』

※優良事例表彰4団体が発表

- お問合せ 全国過疎問題シンポジウム実行委員会事務局
〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
石川県企画振興部地域振興課内
TEL.076-225-1312 FAX.076-225-1328
www.pref.ishikawa.jp/shinkou/ (地域振興課 HP)